

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	①ゆったりとした自由な環境の提供 ②1人1人の個性を大切にしている取り組み ③家族との連携を深め在宅復帰を目指す ④街に開かれたグループホーム作り 以上、4つの柱を挙げ取り組んでいる	○ ④ボランティアの受け入れや、思い出の地へのドライブ、外食、美容院に出かけるなど、出かける機会は多かった。今後も出かける機会作りを続けていく。11月、「地域で支える介護」をテーマに、一認知症の方を地域で支えるには一との講演依頼を受けている。機会があれば、参加をし、地域への理解を深めたいと考えている。また、利用者さんとの散歩で出会う近所の方たちとの挨拶も、手段として大切と考える
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、夜勤明けと当日出勤者が、朝礼引継ぎ時に理念の唱和を行っている。また、法人内自由研修でも理念について話し合う機会作りを行っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議の席で委員と懇談し理解を深めている。また、委員に新しく地元老人会会長をお願いし、理解を深めていただくよう努力している	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所のお花の先生が、自由にお花を生けに来て下さっているが、先生の友達も、回数は少ないものの、お孫さんと一緒に利用者さんに会いに来て下さる様になった。また、新しくボランティアの受け入れを始め、その日は、ふれあいホーム利用者さんも遊びに来られる様声掛けを行い、実現している	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動に参加することは困難である。今まで特養に来られる業者さんに散髪をお願いしていたが、近くの床屋をお願いし出かけることが出来るようになった。また、職員の畑を開放して貰って、ふれあいホーム利用者さんと一緒に収穫祭に参加した	

グループホーム真愛の家恵の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	推進会議で、職員の勉強会の内容をお伝えし、日頃利用者さんにとどのような関わりを持っているか学んで頂ける機会を作った。また、11月、地域に認知症についてや介護・関わり方について講演の予定		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	追われる日々の中で、具体的に評価を上げて行く事が出来ない現実はあるが、評価を受けている意味に対する意識は持っており、行動を起こす際の判断基準として、また、改善を意識した取り組みに近づく努力にはなっている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、ご家族にも推進会議の存在をより意識していただく事を目的に、そして推進委員さんには、より事業所の理解を深めて頂くことを目的として、敬老祝賀会と一緒に参加していただいた。次回の推進会議で意見を聞く事になるが、ご家族からは良い評価を得たのではないかと雰囲気から感じている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進委員の中に市の職員さんも参加して貰っており、敬老祝賀会でも様子を見て貰った。また、昨年度お世話になった口腔ケアの先生とも連絡を取り合い、相談にのってもらい、その報告を市の研修担当者に行った		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	昨年度は二人活用があったが、今年度は必要と思われる方がなかった。管理者が、市の取り組みである高齢者虐待防止委員会の委員であることから、話を聞く機会や関わりを持っておられる担当者との接触の機会はある。また、管理者が、権利擁護事業を利用されている方の訪問を一件担当している		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が、舞鶴市が取り組んでいる高齢者虐待防止委員会の委員に加わっている。その中で、虐待について学んだことを職員にも必要に応じ伝えている。また、言葉の虐待もあることを職員に伝え、今年度は言葉使いについて職員への意識付けに重点を置いてきた		

グループホーム真愛の家恵の里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>1名、経済的理由で特養に入所の為退所。特養への移動はご家族からの要望があり、特養職員、ご家族、グループホーム管理者の懇談、説明によって成り立った。新規入所ご家族には、職員とご家族が一緒になって援助を行っていきたいことを伝え、入所の決定は、ご家族が施設見学を行われ、納得されてからとなった。面会回数も多く確保できている</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時受ける質問に対しては、その場で解決できるよう努力している。一件、ご家族から「利用者(母)さんの様子を近所の方に伝えたいが、良い方法がなくて」との声をいただき、利用者さん全員に入所されてからのアルバムを作成し、記念にお渡しでき喜んでもらった</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、請求書発行時、残高報告と領収証、利用者さんの1ヶ月の様子を写真と記事にし報告している。職員紹介は、機関紙発行時写真で報告できるようになった。また、ご家族が来られた時紹介しているが、勤務の都合で確実には出来ていない</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関先に苦情受付箱を設置。面会時、職員がご家族と話す機会が大切と意識し大切にしている。日頃の職員に対して話しやすい雰囲気作りはとても大切と受け止めている</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営とまでは行かないが、職員に委員会担当を置き、委員としての意識付けを行う中で意見をきき、運営に反映できるよう努力している</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>食事介助に時間を要する方、徘徊(外出・散歩)に門外に出られる方があり、時間差出勤を行うことで、必要な時間に必要な対応が出来る体制をとっている</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>厳しい現状はあるが、移動や退職がある場合は、引継ぎ期間を設け、馴染みの関係が出来てからの移動を目標としている。また、続いての職員移動はない様、上司や、関係者に協力を求めている</p>	

グループホーム真愛の家恵の里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>必要に応じて研修に積極的に参加するよう、また、資格取得に向けた声掛けを行っている。今年度は、毎月、職員間の勉強会を実施している。新規入所者を迎えたときは、地域リハビリに取り組まれている理学療法士を呼び、私たちの出来る介護方法について学び実行している。排泄ケアについては、業者のオムツアドバイザーとの連携を大切にし、ご家族の協力も呼びかけ取り組んでいる</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>京都府下グループホーム連絡会に出席し情報交換、勉強会を行っている。施設職員交換研修には2名が出席した。法人内ふれあいホームとの職員・利用者との交流も大切と考え、実施している</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員親睦会があり、催しへの積極的な参加を呼びかけ、開催時には、法人から補助を行っている。また、出来る範囲内で、希望休によるリフレッシュの機会を認めている</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご本人から聞くことは困難だが、なんとなくでも顔見知りになり、共通の話題が持てたなら、安心感を持って頂けるので、その様にしている</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>今年度2名の新規利用者を迎えた。1名は、老健まで面接に行き、ご家族には事業所としての限界も伝え、ご家族の相談も受け付けた。1名は、本人、ご家族、子供さんが見学に来られ、他の利用者さんの様子も見られ納得されての入所となっている。事業所としては、空床ベッドが長引くことは運営上厳しいが、利用者さんとの関係作りには、この時期が一番大切と捉えている</p>	

グループホーム真愛の家恵の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談にこられた時のご家族との対話時間は、事業の内容から考えても、とても大切と捉えている。入所申し込みに来られた時は、あるがままを受け止め聞かせていただく時間を設ける努力をしている。必要に応じ、法人内在宅介護支援センターに繋いでいる。また、帰られる際には、困られた時の一報は遠慮せずにとの一言を付け加えるよう意識している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今年度、2名の受け入れを行ったが、2名とも入所日がサービス開始となった。ご家族の仕事事情もあり、その辺の協力は得られる現状ではなかった。が、頻回な面会や盆帰省の協力を得ることは出来た。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	あるがままを受け入れさせて頂くことが重要と考えている。サービス方針にも掲げ、日々努力している。職員の出勤時間の工夫もこの事が基準になっている	○	職員数にも限りがあり、理想と現実の違いに苦しむが、ご本人にとっても、ご家族にとっても、そして職員にとっても大切なことと捉え、今後も努力をしていく
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会の存在を意識しているが、活動はやや消極的。しかし、今年度の家族会総会では、同じ会長だが昨年と雰囲気が違い会長を積極的に受けて下さった。事業所の雰囲気が変わったとの発言を頂き、やる気を起こして頂けたなら幸いと考えている。毎月の連絡表の活用、機関紙による伝達、電話での状況報告を行い、面会に来て頂き易い雰囲気作りを目指している	○	新規入所ご家族には、ご家族のお手伝いを私たちがさせて頂きたいと伝えている。面会回数も多く、協力的。今後もこの関係を全利用者さんに築いていきたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	昨年度、関係が悪く、任意後見制度を利用されていた方が、良い関係に戻られ、現在も定期的な面会を受けられている。また、「母の住んでいる所や様子を見せてやりたい」と、二件のご家族が孫と一緒に来て下さる様になった。孫の面会場面は少ないので、良い関係作りに努めたい	○	来所時の孫さんの表情は硬いが、帰られるときの笑顔が嬉しい。今後も、このような働きかけを行っていく
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古い年賀状を大切に持参されていたので、宛名の方に手紙を出されるよう促し、返事がくるという嬉しい事があった。しかし、その方が誰なのか覚えておられない寂しさも体験する		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員の動きに合わすのではなく、その日のお仲間の気分で座られる位置も場所も違っている。		

グループホーム真愛の家恵の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			現在、その様なケースはないが、大切なことと受け止めている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	特養、デイセンター職員の協力も得ながら、興味のあるクラブ活動には参加したり、職員の出勤体制を検討し、出来る限りご本人の意向に沿うよう努力している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規利用者さん2名の内1名は入居時ピアノを持参された。施設のピアノとあわせ毎日弾かれている。あと1名は、下半身麻痺と視力障害がある為、歩行器を使い移動。自宅では昼の生活で這う動作をされていた。そのため、地域リハビリに取り組まれている理学療法士に施設に来ていただき、正しい介護方法を学び、より自宅での生活に近い状況を設定できた		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	住宅街への散歩、敷地内での散歩、建物内での生活、様々な方が居られるが、個々に合う援助が出来るよう努力している。職員の出勤時間の調整や、他事業所の協力、ご家族の協力をお願いしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族が来られた時の話し合える時間を大切にしている。ご本人からは、単発的なことしか聞きだすことが出来ない。ご家族とは、健康面が重点にはなるが話していただきやすい関係作りが出来てきた感じを受けている。	○	大切なことなので、時間を掛け根気強く取り組んでいく
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個々の関わりが強くなるほど、見直しや変化を感じる場面は増えてくる。都度、ご家族と連絡を取りあっている	○	昨年に引き続き、プランと記録が連動しないことに苦慮している。今年度は、記録委員を設け、特養記録委員会に参加したり、管理者会議で情報を貰ったりしている。今後も努力する

グループホーム真愛の家恵の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録とプランの連動が出来ない。職員連絡簿を持っており、手書きではあるが、このノートが情報の共有には役立っている現状がある	○	研修会に参加していきます
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者さんの重度化に伴い、病院受診や美容院、外出もご家族対応が困難になってきている。また、ご家族と行かれるよりも、職員と一緒にの方が落ち着かれる場面もあり、付き添い、車椅子対応車の支援が増えてきている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	介護相談員懇談会でボランティアの紹介をお願いし、ハーモニカ演奏に来て頂くことが可能となった。ボランティアさんが高齢の方で、昔懐かしい話・歌を演奏して下さい好評。文化会館で踊りの発表会があり、好きな方が職員と外食を兼ね出かけられた。お仲間同志で外食に出かけ、出身小学校の近くの庭で過ごした。秋の収穫祭に出かけた。等々の取り組みを行っている。	○	舞鶴市介護相談員制度の受け入れは今度も続けていき、相談員さんの気付きを大切に、意見を求めていく
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からの掛かりつけ医を利用されている方が1名居られるが、専門外の皮膚科等は、受診そのものの了解を得ることから、ご家族と相談して決めている。今年度新規入所2名は、事業所担当医を希望された。担当医と相談しながら、ご家族に連絡を取っている。		

グループホーム真愛の家恵の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じ、受診を行っている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員の中に、看護資格を持った職員を採用している。また、担当医の訪問看護師とも連携が取れている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院ケースがない		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	都度、ご家族と話し合っている。1名、終末期を迎えたが、家族の強い意思によって、担当医や訪問看護師、職員全員で連携を取り合った。現在、ご家族が心配されているケースもあるが、いずれも特別な場合を除き、入院は希望されていない。施設の限界は伝えてあり、今後もより良い終末を迎えて頂くよう都度話し合っていく	○	ご家族は、3ヶ月を超える長期入院や、認知症患者が病院に受け入れてもらえない現状に対し不安を持っておられる。施設で終末を迎えられるよう希望されている。ご本人の思いを尊重しながら、都度話し合っていく必要がある
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今年度、1名死亡退所されたが、かかりつけ医を中心に、訪問看護師、家族、職員がチームを組むことが出来た。医師、職員、家族共に悔いのない終末を迎えることが出来た。今後も、この教訓を生かせるよう取り組む	○	終末期は施設でと、希望されているのが現状。今後も施設での限界を伝えながら、納得のいく終末期ケアを行っていききたい
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	1名、ご家族の経済的理由による希望で、同法人内特養に住み替えされた。この時、ご家族、特養責任者、グループホーム責任者が話し合いを行って、サービスの限界についても納得していただいた。その後、引っ越し当日は職員間の引継ぎを行い、慣れて来られるまで情報交換を続けた。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護相談員の活動報告で出される意見を参考にしたり、研修報告の場を使ったりしながら、こまめに職員間の意識付けを行っている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	根気強く職員に対し意識付けを行っている。あるがままの自由な生活を考え、お仲間同志の関係にも気を使っている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団での、日課のある生活は、意識して取り入れていない。職員にも繰り返し説明を行っている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入所前から行かれている美容院に職員が付き添って行かれている方1名、自分でされる方1名、ご家族がされる方1名、近所に出かける方3名居られる。身体的に無理がある方は、特養に来られる業者さんをお願いしている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方にとって苦手な食材を使うときは、料理方法を別にしたたり、違う材料を使ったりしている。食材の買出しは、利用者さんにとって楽しみな時間となっているので、ほぼ毎日出かけている。準備、片付けは一緒に行っている	○ 認知症の進行、機能低下によって、出来ることに制限が起きているが、出来るだけ参加して頂き、受身の生活にならないよう努力していく
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、煙草の希望者は今のところない。飲み物、おやつ等は自由であるが、血糖値の高い方には、別のシュガーを使っている	

グループホーム真愛の家恵の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄委員会を中心に、排泄アドバイザーの受け入れを行い、個々の排泄パターンを把握できている。季節、食べ物によっても日々変化があるので、排泄表を使って都度見直しを行っている。食欲が安定してきた方、パットがなくなった方、パットが小さくなった方、夜間の睡眠確保に繋がった方など、成果が現れている	○	利用者さんの表情が良くなったと感じている。見た目も軽やかで、皮膚トラブルからも解消されてきた。今後も取り組みを続ける
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴担当者は午後からの勤務シフトに組み込んでいるが、利用者さんの入浴日は決めていない。その日のご気分、体調によって考えている。入浴そのものを拒まれる方に対しては、時間を掛けてタイミングを見計らい声掛けを行っている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ベッドの位置等、空間作りを行っている。1名、お元気な頃の生活習慣からか、夜中から朝方になって眠り、昼前起きられる方がある(昼夜逆転ではないよう)が、夜勤者が声掛け、見守りを行い過ごして貰っている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩、ドライブ、特養クラブ活動、デイセンター行事への参加、外食等々を取り入れ、努力している		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名、常に財布の入った鞆を所持されているが、金額はその日によって違っている。ご家族は、本人の楽しみ程度と理解されており、見守りを行っている。使い方の理解が出来ないため、使うためのお金を所持されている方は居られない		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夜間を除き、施設は行っていない。一日に何度となく門から出られる利用者さんには、職員の出勤時間を変則にして一緒に歩く体制をとり支援している。介助の必要な利用者さんも、戸外に出て、季節感、開放感を感じて頂けるよう努力している		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じた外出、お仲間との外出機会が多い。		

グループホーム真愛の家恵の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に電話機を所持されている方は2名。ご家族から電話が掛かってきている。ご自身から掛けられる機会は少ない。その他の利用者に、電話の機会が出来たとき、ご本人に代わる時もあるが、電話口で拒否される事が多い		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員の言葉、態度、面会場所の工夫等に気を遣い、来ていただきやすい雰囲気作りを申しあわせている。面会時間は特に指定していなく、朝、8時頃から夕方8時頃までご家族の面会がある。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉、行い全てに拘束があることを、職員に機会あるごとに伝えている。また、その様な場面に出会ったときは、その場で注意をしている		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外、施錠は行っていない。玄関からも裏口からも出入りされている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	門を出られ住宅街を歩かれる利用者さんもあり、職員は勤務時間の調整を行って一緒に散歩に出かけている。また、運営推進委員さんや地域の方の協力も得ている。玄関にセンサーが設置されており、音によって出かけられた時間を把握し、頃を見て職員が様子を見に行っている。また、法人内職員の協力も得ている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	容器の工夫、ゴミ箱の工夫を行って対応している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	運営推進会議で警察署の方による「認知症の方が行方不明になった時の連絡方法」について勉強会を実施。学んだ事を職員に伝え注意している。また、防火訓練の実施時、救急搬送の仕方や誤嚥時の対応等、同時に学んでいる	○	今後も続ける

グループホーム真愛の家恵の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行えていないが、看護師や先輩職員、管理者が個々の場面で、伝えたり指導を行っている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練を年2回実施	○	近所の方が到着されるまでを想定した訓練を実施しているが、今後も地域への働きかけを続けていく。運営推進会議委員さんにも働きかけている
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	重度の方、門を出て歩かれる方等、起こり得るリスクに違いがあるが、ゆったりとした、人間らしい生活を送っていただきたいとの思いを伝え、理解して貰っている	○	こまめな対応と、説明が欠かせないと考える
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	看護師を中心に情報を共有することに努めている。記録、職員間の連絡ノートを使っている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心にしている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い物、食材の工夫、水分補給に努めている。必要に応じ、法人本体の管理栄養士の助言を得ている。また、排泄時の姿勢、トイレ誘導が大切と考え、取り組んだ結果、とても良い結果を生み出している	○	良い結果を生み出したことで、職員の意識が変ってきている。この機会を大切に、今後も個々に応じた対応の大切さを伝えていく
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	昨年度、施設に来て頂いた口腔ケアの先生と連絡を取り、アドバイスを受けている。歯磨きの出来ない利用者さんには、アドバイスを受けた品を使って、うまくケアが行えている	○	今年度も、舞鶴市主催の研修予定と聞いており、多くの職員の受講を考えている(施設に迎えるか)。認知症の方の口腔ケアは、ご本人の理解が得られ難く、困難な場面に多々出会う

グループホーム真愛の家恵の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人本体管理栄養士に相談したり、個々に応じた食事形態の工夫を行っている(軟食・刻み・すったもの等)、好みの飲み物の準備やトロミをつける工夫等も行っている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	特養・感染症委員会から助言を受けると共に、職員間でも看護師を中心に、マニュアルに添った対応を心がけている。予防接種の実施		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器乾燥機の使用。買い置き量は、乾物を除き一日分として、毎日の食材購入を行い、新鮮で安全なものの提供に努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	常に開錠。玄関先には花を植える等、親しみやすい雰囲気作りに努力している。また、玄関まで来られたお客様は、中に入られるよう声掛けも行っている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間作りを意識しているが、認知症の方にとって様子が変ることは不安な様子。利用者さんのお1人の認知症の進行によって、今まで置いていた緑の鉢物等、全部無くなった。(居室に持ち帰られ枯れてしまったり、夜中に配置換えをされ、根こそぎ捨てられたり) 別の方法で、椅子の位置を変えたり、雰囲気を変えてみたり、利用者さんの動きに合わせ考えている。	○	今後も考え続ける
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間の中で苦労はするが、利用者さんの動きを見ながら、椅子やソファを置いたり、変えたり努力している		

グループホーム真愛の家恵の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新規入所2名の内、1名はピアノ持参。1名は理学療法士に相談し、ご本人の生活されやすい、危険でない方法を考えた。他の利用者さんも、ご家族によっては自由に配置換えや、衣替えを行って下さっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレが寒かったが、温風ヒーターを購入し解決した。体調管理が必要なので、外気温との温度差には気をつけている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差が無く、手すりの設置。必要な場所には休憩出来る椅子を置いている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	表札、見覚えのある飾り物を活用している。また、職員が同じ内容の言葉掛けを行い混乱を避けるよう努力している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先には利用者さんが入所時持参された花や、鉢植えを置いている。軒下に椅子を並べ、花を眺められるようになっている。また、裏には畑があり、野菜やホールからでも見えるツルの花(朝顔等)を植え、楽しんで貰っている		

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム真愛の家恵の里

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

この一年、排泄委員を中心に、排泄について考え取り組んできた。ベッド上で排便困難だった方が、ポータブルトイレを使い快便に変わり、食欲が増した。日々、微熱が続いていたのも膀胱内に残尿がなくなった事で元気になられた。この事により、笑顔が見られ、ご家族から喜んで貰っている。また、他の利用者さんも、全員同じ紙パンツにパットを当てた生活から、とても小さいパット一枚に変わり、尿漏れも無く見た感じも良くなっている。職員は、介護に自信を持ち、排泄ケアの大切さを身をもって感じ、個々の排泄ケアに取り組んでいる